

保護者様

京都市立東総合支援学校

令和 2 年度 後期学校評価アンケート結果分析について

後期「学校評価アンケート」にご協力をいただきありがとうございました。

後期の学校評価について、保護者や教職員、児童生徒のアンケート結果を踏まえて分析をしました。紙面では、「概要」と「令和 2 年度前期との比較」「考察」について掲載しています。各項目や集計結果につきましては、本校ホームページにて掲載いたしますので、別途ご覧ください。

1 概要

教職員 質問項目は、前期より 1 項目減。

36 ある項目のうち、肯定的回答（「出来ている」と「だいたい出来ている」）が 90% を超えているのが 31 項目、80% を超えているのが 3 項目、70% 台が 2 項目ありました。否定的回答（「あまり出来ていない」と「出来ていない」）が 10% 以上の項目は、<5-3><6-1><6-3><7-2><8-1> の 5 項目でした。

保護者 質問項目は、前期より 1 項目減。

26 ある項目のうち、肯定的回答が 90% を超えているのが 10 項目、80% を超えているのが 11 項目、70% を超えているのが 2 項目となり、60% 台が 3 項目でした。

肯定的回答が 70% 台だった項目は<1-3><3-2>、60% 台だった項目は<1-10><3-4><6-3> でした。26 項目の中、否定的回答が 10% 以上だった項目は、<1-1><1-2><1-3><1-10><3-2><6-3> の 6 項目でした。

児童生徒 質問項目は、前期より 1 項目増。

19 ある項目のうち、肯定的回答が 90% を超えているのが 6 項目、80% を超えているのが 9 項目、70% 台が 4 項目でした。前期に肯定的回答が 60% 台の項目は 2 項目でしたが、いずれも肯定的回答が 70% 台へと肯定的回答率が上がりました。

前期に否定的回答が 10% 以上だった 8 項目は、後期には<1-2><2-3><3-2><5-2> の 4 項目と半減しました。

2 令和 2 年度前期との比較

教職員

後期は、肯定的回答が 70% 台の 2 項目以外は、全て肯定的回答が 80% を超えていました。しかし、否定的回答が 10% 以上となったのは、前期より 2 項目増え 5 項目となりました。それについて、前期の結果と比較しました。

＜前期否定的回答が10%以上あった項目＞

- 「2-2 教材・教具や備品は整理整頓されている」 (前期 10.6% → 後期 9.4%)
「6-3 地域資源を活用した学習を通して、地域と連携し、理解し合う取組を進めている」 (前期 25.5% → 後期 24.3%)
「8-1 総合支援学校教育研究会や各種研修会に積極的に参加している」 (前期 25.2% → 25.9%)

＜後期に否定的回答が10%以上となった項目＞

- 「5-3 キャリア教育の観点に立ち、児童生徒の生活年齢や発達段階、進路に応じた学習や実習を行っている」 (前期 9.8% → 後期 11.6%)
「6-1 園や小・中学校との引継、学部や学年間の引継は適切に行われ、指導や支援に生かされている」 (前期 7.9% → 後期 10.2%)
「7-2 会議の精選と業務の効率化に取り組んでいる」 (前期 9.7% → 後期 13.6%)

保護者

前期は27項目中、肯定的回答が80%以上の項目は19項目ありました。後期は、26項目中、肯定的回答が80%以上の項目は21項目となりました。さらに、前期では肯定的回答が50%台であった2項目は後期には無くなり肯定的回答率が増えました。また、前期否定的回答が10%以上あった8項目については、後期には6項目と減少しました。それについて、前期否定的回答が10%以上あった8項目について後期の結果と比較しました。

- 「1-1 子どもは、目標を持って学習に取り組んでいる」 (前期 11.5% → 後期 12.9%)
「1-2 子どもは、規則正しい生活を送っている」 (前期 13.3% → 後期 15.1%)
「1-3 子どもは、自分の思いを伝える力を身につけてきている」 (前期 21.9% → 後期 21.9%)
「1-10 保護者として、参観・懇談・学習会などに積極的に参加している」 (前期 24.8% → 後期 29.3%)
「3-2 子どもは、学校のマナーを守り、あいさつや言葉遣いなど、礼儀正しい学校生活を送っている」 (前期 13.9% → 後期 14.0%)
「3-3 子どもは、友だちに対して思いやりを持ち、お互いに協力している」 (前期 11.8% → 後期 4.4%)
「6-3 子どもは、学習や行事を通して地域のいろいろな人と関わっている」 (前期 34.7% → 後期 27.2%)

＜後期の項目では変更＞

- 「7-2 学校は、休校期間中児童生徒の家庭学習の支援を行なった」 (前期 29.4%)
「7-2 学校は、児童生徒への家庭学習の支援や連絡・情報提供を行なっている」 (後期 8.7%)

児童生徒

前期に否定的回答が10%以上だった8項目と、「わからない」という回答の割合が高かった3項目について、後期の結果と比較しました。

- 「1-2 規則正しい生活を送っている」の否定的回答 (前期 12.7% → 後期 17.5%)
「2-1 校内や教室の掃除をしている」の否定的回答 (前期 16.4% → 後期 7.9%)

「2-2 学習で使うものや自分の荷物を決められた場所に片づけている」	(前期 11.1% → 後期 7.9%)
「2-3 手洗いをしている」	(前期 12.7% → 後期 12.7%)
「3-2 あいさつやていねいな言葉づかいができる」	(前期 10.9% → 後期 11.1%)
「5-1 卒業後の進路や生活について学習にとりくんだ」	否定的回答 (前期 13.0% → 後期 8.1%)
	「わからない」の回答 (前期 20.4% → 後期 14.5%)
「5-2 卒業後の進路や生活について、いろいろな人からアドバイスを聞くことがあった」	否定的回答 (前期 18.5% → 後期 11.3%)
	「わからない」の回答 (前期 20.4% → 後期 16.1%)
「6-1 交流や地域の場で、楽しく学習することができる」否定的回答 (前期 7.4% → 後期 8.1%)	「わからない」の回答 (16.7% → 後期 21.0%)
<後期の項目では変更>	
「7-1 休校期間中も学習に取組むことができた」	否定的回答 (前期 16.4%)
「7-1 感染防止のために、自分でできる対策をとって、過ごすように気をつけている (マスクの着用や人との距離など)	否定的回答 (後期 9.7%)

3 考察

(1) 教職員の結果から

後期の教職員へのアンケート調査結果からも、前期同様、今年度の学校経営の各重点項目について、概ね「出来ている」という結果となりました。

「5-3 キャリア教育の観点に立ち、児童生徒の生活年齢や発達段階、進路に応じた学習や実習を行っている」という項目と「6-1 園や小・中学校との引継、学部や学年間の引継は適切に行われ、指導や支援に生かされている」という項目では、コロナ禍の中で、学習に制限があり、学部を越える授業が実施できない状況にあったことが伺えます。今後は、コロナ禍だからできないのではなく、コロナ禍でもできるという方法を摸索し、最大の配慮を講じながら学習を継続していくことが大切な事と考えます。

「7-2 会議の精選と業務の効率化に取り組んでいる」の項目に於いては前期より否定的な回答が増え、働き方についての改善が進んでいない状況が分かります。今後も、終了時刻の設定や、業務内容の精選、取組方法の変更、計画的な時間の使い方等、工夫を凝らし、時間の使い方を見直すこと等、教職員全体が意識して、できることからやっていくことが大切であると考えます。

「8-1 総合支援学校教育研究会や各種研修会に積極的に参加している」については、前期より0.7%とわずかではありますが、否定的な回答が増えました。研修自体が中止や延期となったものもありますが、リモートやZOOMでの研修が行われ、少しずつ研修を受けやすい状況になっていると考えます。様々な機会を活用し、自らの専門性の向上を目指し、学ぼうとする主体的な姿勢で研修会に参加することは大切であると考えます

(2) 保護者の結果から

保護者へのアンケート調査の結果から、後期は26項目中21項目に於いて肯定的な回答が80%

を超えており、学校経営重点の各項目についてはおおよそ達成できているという思いを聞くことができました

後期学校評価アンケートの保護者の自由記述から、「コロナ禍のため、学校での様子が分からぬ時期のアンケートのため記入しにくい」や「学校へ行く機会が少なく、子ども達の様子を見ることが少なく評価しにくい」というご意見をいただきました。

今年度は、保護者に学校での子どもたちの様子を見て頂く機会が少なくなり、アンケートの結果からも、保護者と教職員との間に肯定的な回答の差が見られました。教職員ができていると思っているものでも、保護者は「あまり出来ていない」と捉えられていることが伺えました。前期同様、これまでの取組内容や児童生徒のできた姿を、これからも丁寧に保護者に伝えること、発信することが大切であると考えます。児童生徒が学校で「できるようになったこと」や「がんばって取り組んだこと」等を保護者に伝え情報を共有して行けるよう、懇談会のあり方や、情報提供の方法を工夫していく必要があるといえます。

(3) 児童生徒の結果から

高等部・中学部生徒へのアンケート調査の結果から、19項目中肯定的な回答が80%を超える項目が15項目ありました。アンケート調査の結果から、生徒が日々の学習や生活、友だちとの関係において、概ね満足感を感じていることが伺えました。

前期に否定的な回答率が高かった、「卒業後の進路や生活について学習にとりくんだ」の項目については、否定的な回答が改善され、後期に様々な学習ができたことが伺えます。しかし、まだ「わからない」と回答する児童生徒がいることが分かります。日々の学習が卒業後の生活に繋がるという意識を抱いて、児童生徒が毎日の学習に取り組めることが大切だと考えます。

また、後期に新たに追加した「7-2 不安になった時やしんどくなった時など、自分の気持ちを周りの人に伝えることができていますか」の項目に対して、「わからない」という回答も含めた否定的な回答が若干名でしたがありました。この結果は、教職員間で共有し、児童生徒が安心して学校生活を送れるよう、今まで以上の児童生徒の思いに寄り添い、健康観察を丁寧に行っていくことが重要だと考えます。

4 まとめ

今年度は、コロナ禍で始まり、様々な対策を講じながら学習を進めてきました。学習活動に制限があった中ですが、児童生徒は自分でできることに一生懸命取り組んできました。

後期の学校評価アンケートの結果からも、学校経営の各重点項目については概ね達成できていると捉えられます。しかし、教職員と保護者の肯定的回答回答に差がある項目に関しては、その差の原因を探り、今後改善できるよう努めていくこと必要だと考えます。そして、これまで以上に、保護者には学校で取り組んでいる学習内容や児童生徒のできる姿を丁寧に伝えていくことが重要であるといえます。

今後も、日々の連絡帳や学年、学校だより、学校ホームページ等で、児童生徒の様子を発信し、学校での取組が伝えられるようにしていきたいと考えます

アンケート結果から出てきた課題については教職員全体で情報共有を図り、学校運営協議会でのご意見も伺ながら、次年度に向けて課題の解決・改善できるよう取組を進めてまいります。